



飛騨高山まちの博物館のインバウンド対応

飛騨高山まちの博物館 学芸員 青木 俊郎

本稿では、高山市の飛騨高山まちの博物館（以下、まち博）の紹介と、まち博におけるインバウンド（訪日外国人旅行）対応状況について紹介します。

まち博は、高山市の直営博物館です。平成23年（2011）4月、前身である高山市郷土館をリニューアルし開館しました。江戸時代の豪商である永田家・矢嶋家の跡地を一体的に整備したもので、土蔵を再利用して展示室として使用しています。立地は国選定重要伝統的建造物群保存地区である「古い町並」の近くです。

まち博は午前9時から午後7時まで開館しており、庭園は午前7時から午後9時まで入場可能です。燻蒸による休館以外は年中無休で、入館無料の施設です。

常設展示は、①展示案内、②高山祭、③高山の町家、④飛騨の匠の技、⑤城下町高山、⑥金森氏六代、⑦伝統行事、⑧美術、⑨信仰、⑩町人の暮らし、⑪学問・文芸、⑫大火と防災、⑬伝統工芸、⑭産業、についての展示室と、特別展示室があり、小さな展示室を渡り歩いていくスタイルとなっています。

観光地である高山市には、平成30年、444万人の観光客がありました。その内外国人は宿泊ベースで55万2千人（12%）でした。

まち博へも17万9千人の来館者がありました（平成30年度、以下同）。その内、口頭アンケートによって確認できただけで、外国人は少なくとも約6千6百人の来館者がありました。国別比率は、中国が22%とトップで、以下オーストラリア（10%）、フランス（7%）、アメリカ（6%）、イギリス（5%）と続きます。

まち博受付では、近隣観光地や館内の案内を主に行っています。受付では、市役所作成の市内観光マップ（日、英、中国繁体、簡体、タイ、韓、仏、スペイン、伊、独、ヘブライ）を準備しています。また、館案内リーフレットは、5カ国語（日、

英、繁体、簡体、韓）分あり、おおむね対応できています。英会話が堪能でない一職員としての雑感では、外国人対応に最低限必要であるのは英語のリスニング能力と、返答できるだけの英語の語彙力であると感じています。

展示室内では、おおむね各展示室の全体解説・展示資料の名称に英語訳をつけています。その内、全体解説については、一部英・中・韓の訳文を付しています。また、まち博ガイドボランティアの中には、英語・中国語などで展示ガイドできる方も在籍しています。

まち博のインバウンド対応は上述の通りですが、アンケートによれば、外国人観光客の多くはまち博に対して好意的な評価です。特に、土蔵が連なるまち博の雰囲気が受け入れられているようです。外国人来館者が中庭のベンチに座り、ゆっくりと時間を過ごす様子がしばしば見受けられます。

一方で、インバウンド対応の課題を考えると、外国人来館者に、資料の見た目のみならず展示内容を深く理解してもらう点があります。解説文の英訳は、日本人向けの解説文・名称をそのまま英訳しており、日本文化を理解している（と想定している）日本人向けの内容です。また、英訳をつけているのは展示全体の一部です。展示の趣旨や歴史の流れを、外国人来館者が理解できているかどうかは未確認です。今後、多言語対応を更に進めていく際、留意しておかなければならないと考えています。



まちの博物館 中庭

令和元年度岐阜県 博物館協会通常総会、表彰 令和元年度岐阜県博物館協会通常総会

期 日：令和元年6月9日（日）
会 場：岐阜県博物館 けんぱくホール
参加者：95名（委任状含む）

令和元年度通常総会が、6月9日午後より岐阜県博物館マイミュージアム棟3階けんぱくホールにて開催されました。本年度の議題は①役員の新補充について②平成30年度事業報告及び収入支出決算の承認について③令和元年度事業計画及び収入支出予算の決定について、以上の3議題となりました。総会はスムーズに進行し、すべて承認可決されました。

令和元年度の事業計画では特に大会参加費が増額されました。これは9月1日から7日にわたり日本で初めて開催される国際博物館会議（ICOM）京都大会と、9月5日に開催される第67回全国博物館大会の参加費を助成するためのもので、より多くの会員が参加できるようになりました。

また議題に加え、この日から施行された共催及び後援の承認に関する規定が報告されました。規定を設けることで共催及び後援の存在の周知とその利用の道筋を示すことでより利用しやすくなりました。

私は今年度から事務局を担当することとなりました。通常総会では委任状が多く、もっと多くの方が参加できるような総会にしたいと感じました。また今年度はICOMと全国博物館大会が京都で行われますが、これはまたとないチャンスです。この機会に助成制度を利用させていただき、ぜひ多くの方が参加され、チーム岐阜県の発展につながることを願っております。

事務局としてできることを最大限努力し、少しでも魅力的な岐阜県博物館協会に発展させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（岐阜県博物館 市村祥）

令和元年度岐阜県 博物館協会県民文化講演会 「地方の文化の魅力に触れる」

講 師：小野正嗣（作家・早稲田大学教授）
日 時：令和元年6月9日（日）14:30～16:00
会 場：岐阜県博物館 けんぱくホール
参加者：112名

今年度の県民文化講演会は、芥川賞作家として精力的な文筆活動を行うかたわら、最近ではNHKの日曜美術館のキャスターや、早稲田大学の坪内逍遙大賞の選考委員をつとめるなど多彩に活躍しておられる小野正嗣（おのまさつぐ）氏をお招きしました。軽妙でありながら知的な語り口に聴衆は思わず引き込まれていきました。お話は気さくな人柄がにじみ出てくるようで、楽しい時間を過ごすことができました。



〈講演の様子〉

大分県南部の漁師町に生まれ育った体験が小野さんの創作活動の原点となっています。都会では最近あまり見られなくなった濃厚な人間関係や職業や肩書ではない人格としての付き合いというものがまだ残っている地方は素晴らしいと小野さんは話しました。地方に住むひと、人間関係、更にそれらを包含した地方の文化こそ魅力的であると指摘されました。

今日、地方の魅力や重要性が様々な場面で叫ばれています。そのためには地方が持っている文化的資源を調べて掘り起こしていく、地味ではありますが基本的作業が欠かせません。身近なところに魅力は在るのです。そのために地方の博物館や美術館は、機能を十分発揮して、その地域特有のよさを引き出して活用するという、社会の中で果たすべき役割が大いにあることを、この講演を聞いて改めて感じました。

（美濃加茂市民ミュージアム 可児光生）

中濃ブロック部会施設見学会 「関の刃物と刀剣のミュージアム」

日 時：令和元年6月28日（金）13：30～15：00
会 場：関市内（フェザーミュージアム、関鍛冶伝承館）
出席者：5名

今回、令和元年度第1回目の中濃ブロック研修会として、関市内にある二博物館の見学を行いました。

中濃ブロックは現在26館の加盟館がありますが、将来的にブロック内で連携をしていくために、各々の館がどのような活動をしているのか、展示構成をしているのかといった互いの基本情報の共有を目的に、視察を含めた情報交流を行っています。

午後1時半に集合し、最初にフェザー安全剃刀株式会社の敷地内にあるフェザーミュージアムを見学しました。ここでは「切る」をテーマに、石器時代から現代までの刃物の歴史を楽しみながら知ることができるほか、最先端の医療用刃物などを紹介していました。3年前に改装した展示室は、映像や鑑賞者のアクションによって特徴や原理を理解する展示物など、より易しく学ぶことができるよう工夫されており、大変参考になりました。次に、古来より関市に伝わる刀鍛冶について紹介する関鍛冶伝承館に向かいました。ここでは、製造工程・歴史に関する様々な資料や映像、刀剣が展示されており、学芸員の詳しい解説を聞きながら見学しました。関に刀鍛冶が誕生したのは鎌倉時代と言われています。室町時代後期には、「関の孫六」こと兼元を筆頭に、関市で刀鍛冶が一大産業となりました。その関を代表する兼元・兼定の日本刀など多数の刀剣も鑑賞しました。

今回は、刃物の産地にある専門館として二館を見学しましたが、中濃ブロックでは、今後も地域の博物館や美術館を視察見学する研修会を開催し、館同士一層の交流を図りながら活動していきたいと思えます。

（岐阜現代美術館学芸員 宮崎香里）



第155回公開講座 中濃ブロック部会 「明治のころ 博物館を考えていたひと」

講 師：櫻井弘人（長野県・飯田市美術博物館）
期 日：令和元年8月3日（土）14：00～15：30
会 場：美濃加茂市民ミュージアム
参加者：14名

この講座は、美濃加茂市民ミュージアムで開催の企画展「日本の博物館は岐阜から－博物館の父・棚橋源太郎と岐阜ゆかりの人々－」の関連企画として、同館と県博協中濃ブロック部会が協力して開催しました。



講師の櫻井弘人氏は長野県の飯田市美術博物館で学芸員として、長年 民俗芸能の調査研究のほか、同館で開催の展覧会「日本の博物館の父 田中芳男」や「日本の近代化に挑んだ人びと - 田中芳男と南信州の偉人たち」など、地域の歴史、人物顕彰分野の展覧会も担当されてきました。

棚橋源太郎が東京師範学校附属東京教育博物館の主事として着任する以前にも、博物館のことを考えていた先人が多くいました。その一人が長野県飯田市出身の田中芳男です。今回の櫻井氏のお話の中では、その田中芳男の生い立ちから博物館とのかかわり、代表的な著作や業績、人物関係などを、スライドを使いながらお話いただきました。

今回は一般の方のほか、博物館関係者の参加も多く、「人物・歴史の視点から考えることが面白いと思えました。」「一つ一つの図の本物を見てみたいです。」「久々利という身近な地名が登場し、驚きました。」などの声を頂きました。田中芳男の父は飯田藩の城下にあった旗本・千村家（美濃の久々利）の役所において医者をしていました。つまり現在の可児市久々利と縁があります。また岐阜の名和靖と田中芳男の交流があったことも知られています。南信地方がぐんと近く感じられました。

人と人のつながりから、新しい関係を見つけだそうとした今回の展覧会、これからも岐阜という地域の歴史的な事柄や資料とその周辺について研究を進めていきたいと思えました。

（美濃加茂市民ミュージアム 西尾円）

第97回研修会 「今の著作権あれこれ 勉強会」

日 時：令和元年7月12日（金）13:30～16:00
会 場：ミュージアム中仙道
参加者：14人
コーディネーター：可児光生
（美濃加茂市民ミュージアム）

展覧会の企画や印刷物作成、広報、来館者対応など、博物館では著作権への配慮が必要な場面が多く発生します。SNSの普及もあり、対処に苦慮する場面が増えている現状から、改めて著作権を学ぶ機会を作りたいと考えました。そこで『改訂新版 現場で使える美術著作権ガイド2019』の著者・甲野正道氏の講演会を計画しました。更に講演の前に、会員が著作権の考え方を習得すること、現場で直面する問題を洗い出し、先生への質問事項を整理することを目指した勉強会を行いました。



まず著作権に関する問題集を解き、考え方の基本を確認しました。次に加盟館員から集めた疑問や具体的な事案について、可児館長が先生の著書や著作権法に該当する条文と照合してまとめた資料を見て話し会いました。

互いの経験から解決の糸口が見えた案件もあれば、肖像権や財産権も考慮する必要がある問題も判明しました。条文と照合して検討するうちに、状況分析と条文を読み解く力がついていくのを実感しました。

甲野先生には、この話し合いの結果と質問事項をまとめて提出し、それらの事柄についてお話しただけのよう依頼しました。

この研修会の総括は、協会のホームページ内に新設された加盟館のみが閲覧できるページに掲載予定です。ひと部会は今後、協会員が等しく参照できるように研修結果の蓄積を目指します。

（美濃加茂市民ミュージアム 和歌由花）

もの部会第1回部会・見学会 @岐阜大学「アーカイブ・コア」

日 時：令和元年7月12日（金）13:30～17:00
会 場：岐阜大学アーカイブ・コア（岐阜大学図書館内）
参加者：24名

部会

第1回もの部会は、11名の参加者で活動の報告や協議が進められました。報告では、前年度冬の活動（「中部・近畿文化財防災連絡会議」「高賀神社（関市）の環境保全調査」）をふりかえり、共有しました。

協議では、①災害・収蔵環境保全用備蓄資機材、②「平成30年度関市水害における汚損アルバム写真等の処置活動」の記録化、③研修・協力等事業、④調査事業について、意見交換等を行いました。

特に①は、購入した物品の保管方法や今後（試験的に使用して実際に備える、等）について。③は、郡上市歴史資料館開催のフォーラム（8/25）で、②作業時の道具類を会場へ展示することや他部会との連携企画案について。また④は、羽島市を会場にして機会をもつこと、等が示されました。

最後に。今回はうれしいことがありました。関心を寄せてくださった新たな部会員の加入があったこと、多くのメンバーが集まってきたことです。終了後は、場所を変えて、交流の時間も持つことができました。多忙な業務を抱え、専門分野もバラバラなメンバーですが、日頃の思いやアイデアを気軽に出し合い、時には教えていただいたり・・・、これからも大切な時間・場になればと思います。

見学会

もの部会と岐阜大学学術アーカイブズ 教育学部郷土博物館の共催で、会員向けの見学会を実施しました（参加者13名、講師 須山知香氏ほか）。創立70周年を迎えた岐阜大学が所有する歴史的資料・学術資料を適切に保管し、活用するための施設や仕組みが紹介されました。同施設では、多くの貴重な資料が収蔵展示され、一般公開（注：期日や時間の限定あり）されています。ぜひ、ご覧ください。

（美濃加茂市民ミュージアム 藤村俊）

館・園紹介 No.165

不二竹鼻町屋ギャラリー

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻町2765

TEL / 058-393-0951

FAX / 058-393-0952

URL / https://www.city.hashima.lg.jp/soshiki/8-13-0-0-0_2.html

平成26年に不二精工株式会社より美術品88点が寄贈されたのを受け、竹鼻まちなかの賑わい創出に向けた新たな拠点として、市所有の京町屋式民家（大正3年建築）を有効に活用し、京町屋の風情を残した佇まいのなかで、文化的価値の高い美術品等を展示することし平成30年4月18日開館しました。なお、当館は、不二商事株式会社がネーミングライツパートナーとなっているため、その愛称を「不二竹鼻町屋ギャラリー」としています。

近接する施設として平成28年4月にオープンした「はしま観光交流センター（愛称：ぐるっと羽島）」や「竹鼻別院」、「歴史民俗資料館・映画資料館」があり、その有効活用を図ることにより、竹鼻まちなかへの相乗的な集客効果につなげています。

また、地域教育の充実や地域の歴史・伝統芸能・文化の継承、体験・交流の場としても活用し、当該地区の地域住民の取組み意欲の向上や地域のまちづくりの担い手の育成を目指しています。そこで、2階に研修室を設け、所蔵品展のほか、ワークショップや講演会の開催ができるように、畳敷きまたはフローリングに変えられる仕様としています。

令和元年8月30日から10月27日まで第2回所蔵品展として「いのちの声 いきものの詩（うた）」を開催しており、絵画作品では前田青邨や奥村土牛、陶芸作品では林庄太郎や藤本能堂の作品を展示しています。

このほか関連イベントとして、はしまマスターの広東もなさんとオリジナル缶バッジの作成や、美濃織伝承会さんによる美濃織歴史探訪ツアーも行います。

皆様のご来館をお待ちしております。

（不二竹鼻町屋ギャラリー 河村 健太郎）



図書紹介

会員のお薦め図書

瑞浪市陶磁資料館 砂田普司

『改訂新版 現場で使える美術著作権ガイド2019』
甲野正道 著、全国美術館会議 編
発行 美術出版社

ポスターや図録といった印刷物の制作、動画や映像の上映、展示品の写真撮影やSNSへの対応など、博物館業務・活動と著作権の関係は、切っても切り離せません。博物館職員のみならずも、これらの業務の中では頭を悩ませることが多いのではないのでしょうか？



本書は博物館活動と著作権制度の疑問について詳細に解説するもので、著作権制度の意義、著作権制度の概要、美術館の諸活動と著作権、Q & A という4章から成ります。

著作権制度の意義では、著作権の社会的意義や日本への導入史が端的に述べられます。

著作権制度の概要では、保護の対象となる“著作物”の定義やその事例、著作権に関わる様々な権利や使用許諾の要否、引用の要件など多岐に渡る内容が説明されます。

美術館の諸活動と著作権では、美術作品に加えて工業生産品を展示する際の留意点、Webへの画像等の掲載や来館者の写真撮影などへの対応など、博物館で必要となる様々な業務における法解釈などが解説されます。

そしてQ & A では、作品の展示や広報活動、図録・グッズ等の作成など展覧会開催に係る疑問、また、所蔵作品の取扱いやその他の活動など美術館運営一般に係る疑問など52の疑問について、その法解釈や適切な対応などが細説されます。

加えて、巻末には索引も掲載されており、用語から事例を調べられるようになっている点も本書の利便性を高めています。

岐阜県博物館協会では、本年度「著作権」をテーマとして研修会を開催しました。遠方・多忙により研修会に参加できなかった方はもちろん、研修会に参加された方も、改めてご一読いただければ著作権に対する理解を一層深めていただけたと思います。

博物館協会 インフォメーション

意見募集 ホームページの改善について

前号でも触れたとおり、「こと部会」では、岐阜県博物館協会のホームページ充実を鋭意図っており、昨年度も1970年以降に発行された「岐阜の博物館」のバックナンバーを全件掲載し終わりました。

近年では、各部会や地域ブロックによる活発な活動に伴って、その事業の告知や成果報告の集積などにも効果的に機能するよう努めています。そこで、以下の事項を検討していますので、ご意見・ご要望などお聞かせください。



協会ホームページ

1. 催事の告知掲載について

現状では、各部会等から博物館協会事務局（「こと部会」担当）にメールで情報をお送りいただき、同担当から業者に依頼したのちアップされます。このため、掲載まで最低1週間程度を必要としており、なかには告知期間が十分でないケースも生じています。したがって、お手数ですが余裕をもった情報提供をお願いいたします。

また、これとは別にツイッターを利用した情

報の告知を検討しています。例えば各部会長などから直接ツイッター上に情報を書き込んでいただき、協会のホームページにはそのツイッターを埋め込んでリアルタイムに周知することで迅速化や効率化を図ろうとするものです。いまのところホームページのシステム管理上、博物館協会側でホームページの情報を直接書き換えることが難しいため、このような方法を考えています。

2. 各事業の報告の蓄積

会員専用ページを使って、各事業の報告書などを掲載しながらアーカイブ化していきます。すでにIDとパスワード入力後にページ内へ入ることが可能です（ただし、現在は一部会員による試行段階です）。

これらIDとパスワードについては追って会員各館や個人会員にお知らせいたします。なお、当該ページについては、上記のような催事の告知等と異なり、一般への情報提供をおこなうものではないためこのような仕組みとしています。ただし、IDとパスワードについては、厳重に管理するところまでは求めません。したがって、仮に情報が外部に漏れた場合でも、問題にはならない内容に限ることとします。

編集後記

平成から令和へと改元した本年、日本で初めてICOM（国際博物館会議）の大会が開催されました。世界141の国と地域から、3000人を超える博物館の専門家が京都に集まり、様々な催し等がおこなわれました。次号ではその報告も予定しております。また、近年特に地域ブロックの活動が際立つなか、今回は中濃ブロック部会より2本の原稿をいただきました。

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」
発行：岐阜県博物館協会
事務局：〒501-3941
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）
（電話）0575-28-3111
（FAX）0575-28-3110
（URL）<http://www.gifu-museum.jp/>